

第3回臨床メタボロミクス研究会

膜生物学グローバルCOEプログラム・シグナル伝達医学グローバルCOEプログラム
生命医学イノベーション創出リーダー養成プログラム・株式会社 島津製作所 共催

平成23年10月25日(火)15:00~19:00

会場:神戸大学医学部 神緑会館 多目的ホール

生体を構成するタンパク質の働きによって、恒常性を保ちながら物質代謝が正常に行われ、生命は維持されている。様々な病気はタンパク質の機能が異常となり、正常な物質代謝が妨げられることから生じる。したがって、生体を構成するタンパク質(プロテオーム)と、生命を維持するために必要な代謝産物(メタボローム)の「正常」と「異常」状態を解析することが、病気の原因の本質を知ることにつながり、新たな治療ターゲットの発見につながる可能性がある。また「異常」となった組織でみられるタンパク質・代謝産物は疾患の病態を反映する新たなバイオマーカーとなる可能性がある。しかし、ゲノム解析と比較して、タンパク質・代謝産物総体の解析、すなわちプロテオミクス・メタボロミクスは、それらを構成する成分が複雑多様であることと、増幅させることができないことから、病気に関連するわずかな変化を検出することが技術的に難しいという問題を抱えてきた。

近年の質量分析技術の進歩により臨床マテリアルを用いたプロテオーム・メタボロームの解析が進んでいる。本研究会では国内におけるプロテオミクス・メタボロミクスにおける第一線の研究者をお招きし、最先端の研究をご紹介頂く予定である。ポストゲノムの新しいオミックスであるプロテオミクス・メタボロミクスの可能性・発展性を実感して頂ければ幸いである。

P R O G R A M

- 15:00~ 開会の挨拶
根木 昭(神戸大学 大学院医学研究科長・医学部長)
- 15:05~ 「質量分析総合センターの取り組み」
竹縄 忠臣(質量分析総合センター長)
- 15:10~ 「プロテオミクスからのアプローチ」
波多野 直哉(質量分析総合センター)
- 15:25~ 「メタボロミクスによる糖尿病バイオマーカーの探索」
横井 伯英(細胞分子医学分野)
- 15:40~ 「メタボロミクスによる疾患診断の試み」
吉田 優(質量分析総合センター)
- 15:55~ 「メタボロミクスに関する島津製作所の取り組み」
飯田 順子(株式会社島津製作所 分析計測事業部 ライフサイエンス事業統括部
MSビジネスユニット LCMSプロダクトマネージャー)
- 16:10~ 「メタボリックプロファイリングの精密表現型解析への応用」
福崎 英一郎(大阪大学 工学研究科 生命先端工学専攻 教授)
座長:南 康博(細胞生理学分野 教授)
- 16:40~ 「pico-診断時代の可能性」
升島 努(広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 分子治療デバイス学講座 教授
理化学研究所・生命システム研究センター(QBIC) P.I.)
座長:片岡 徹(分子生物学分野 教授)

《コーヒーブレイク》

- 17:30~ 「O型糖鎖プロファイルの恒常性とその変化要因について」
和田 芳直(大阪府立母子保健総合医療センター 研究所長)
座長:平田 健一(循環器内科学分野 教授)
- 18:00~ 「組織、体液からの表面溶媒抽出ナノ質量分析法による臨床リポミクス」
田口 良(中部大学 生命健康科学部 生命医科学科 教授)
座長:樽林 陽一(統合創薬科学分野 教授)
- 18:30~ 閉会の挨拶
西村 紀(質量分析総合センター 副センター長)
- 18:35~ ポスター発表

★講演会終了後、研究情報交換会(無料)を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

お問い合わせ先 神戸大学大学院医学研究科 質量分析総合センター

担当:山川 知恵子 TEL:078-382-5355 E-mail: yamachie@med.kobe-u.ac.jp